

第14回 槐の会写真展



「昭和・平成の鶴岡八幡宮」

入賞作品展

審査委員 芳賀日出男氏・日向氏による講評

2021年の槐の会写真コンテストは、過去から現在までの記憶に残る写真展「昭和・平成の鶴岡八幡宮」を発表します。多くの方から皆様の記憶に残る場面、印象的な場面の作品が集まりました。入賞された作品はどれも鶴岡八幡宮の歴史、側面、気候、和の意匠を語る貴重な記録です。それぞれ撮影された方々からの思い出、さまざまな角度からの鶴岡八幡宮を垣間見ることができました。入賞された皆様、おめでとうございます。

鶴岡八幡宮
宮司賞

『在りし日の大銀杏』

安河内 健一

撮影日：2007年12月8日

審査委員からの講評

鶴岡八幡宮の大銀杏は2010年3月10日未明に倒れた。鎌倉の歴史といっても良い樹齢千年の御神木の倒伏はその日の朝の全国ニュースになった。その2～3年前から大銀杏は秋になると燃えるような黄葉(こうよう)の姿を見せた。力尽きる最後の姿だったのだろう。倒れた後にその年の4月1日に新芽が生え、我々は継承という言葉进行思い浮かべた。大銀杏に魅せられたさまざまな写真の応募があったが、きっちりと正面から秋の黄葉の大銀杏を捉えた作品が宮司賞となった。



審査委員賞

『本宮への道』

有田 俊介

撮影日：2020年12月1日

審査委員からの講評

月首祭で本宮へと向かう神職。雨で石段が黒く濡れ、淡色の狩衣と和傘が優雅に映える。一糸乱れず一段一段と石段を登るその姿は神聖で荘厳さを感じさせる。雨の日の後ろ姿に日本の美を発見した。



カメラの キタムラ賞

『紅葉に光芒』 秋本 英俊

撮影日：2019年12月18日

審査委員からの講評

柳原神池にかかる赤橋では美しい紅葉が見られる。神職と参拝者が橋を渡り降りると、紅葉の中に光芒が差した。この光景のお二人はどのように感じ取られたのだろうか。ドラマを感じさせる作品となった。



優秀賞

5点

『2010-03-10@11:17』 榎原 等

撮影日：2010年3月10日

審査委員からの講評

大銀杏の御神木が倒伏した日の午前11時。雨が悲しげに降っているようだ。梅の花が咲き、倒れた大銀杏の側を緋袴の巫女が通る。何を思っているのでしょうか。大銀杏におつかれさま、とでも囁いているような場面を感じさせた。



『秋色の白旗神社』

柳澤 穂浪

撮影日：2015年12月10日

審査委員からの講評

四季折々の表情をみせてくれる白旗神社はカメラの被写体としてファンが多い。

白旗神社の紅葉は手前に常緑樹、奥に黄色い銀杏を挟んで紅葉が彩る。色のシンフォニーを白旗神社から惹き出した。神社にあたる木漏れ日も素敵だ。



『時代をつなぐ孫生』

小島 為玖生

撮影日：2016年11月24日

審査委員からの講評

ここ数年は大雪が降ることがない。この作品を見ると11月下旬に大雪が降ったことがわかる。お宮をきちっと捉え、一面に雪が降っている様子を映し出した大作となった。



『聖なる稲穂』

石井 良明

撮影日：2019年9月15日

審査委員からの講評

鶴岡八幡宮例大祭で神輿三基が氏子たちによって担がれる。神輿の上に飾られる鳳凰は稲穂をくわえている。望遠レンズを使い被写界深度を浅くし、稲穂に焦点を合わせ、奥をぼかした手法が鳳凰を浮き出し、豊作を喜ぶ気持ちを印象づけた。



『70年前の思い出』

北尾 優博

撮影日：2021年5月20日

審査委員からの講評

メッセージには「京都の中学校の学校行事（当時14歳）の記念写真です。ご神木のいちようの木が大きく広がって偉容をほこっていました」とある。なるほど本殿へ登る石段の半分まで枝が伸びていたのか。一つ一つ思い出を浮かべながらお茶を味わっている感じが感じられる。槐の会写真展では初めて登場したイメージ的な作品。お見事です。



佳 作

7 点

『流鏑馬神事』

山口 光彦

撮影日：2007年9月15日

審査委員からの講評

全国の流鏑馬のなかで最も写真撮影の難易度が高いのが鶴岡八幡宮例大祭の流鏑馬神事。馬はサラブレッドで年々速くなる。十数騎射るのだが、鎌倉武士の狩りの正装束姿揚装束での流鏑馬は最初の3騎だけ。通常は熟練度の低い者から始まり、だんだんベテランが登場するのだが、カメラマンのウォームアップができていない時、いきなりの撮影は難しい。行滕姿の鎌倉武士の流鏑馬は迫力あるが、射手の表情、弓の形、馬の前足の形などが整わないと作品にならない。重要な正装束姿の流鏑馬3騎が終わるとあとは、軽装に改めた平騎射10数番ほどとなり、カメラマンは次回への練習となる。



『朝の光』 岩崎 茂樹

撮影日：2007年12月12日

審査委員からの講評

やはり倒伏する数年前の大銀杏は燃えるような色だった。生命の最後の時まで力いっぱいエネルギーをだしていたことを感じる。大銀杏を画面いっぱいに入れて、緋袴の巫女をワンポイントとしたことが、普通の風景写真を大作へと昇華させた。



『雪の朝』

神村 輝夫

撮影日：2008年2月3日

審査委員からの講評

大きなぼたん雪が降っている。寒そうに巫女が本殿への石段を登る。白い雪、本殿を彩る朱色、巫女の緋袴と色が揃っている。巫女の石段の上り加減の位置も本殿の立派さを感じさせる。



『人長の舞』 森崎 清光

撮影日：2012年12月17日

審査委員からの講評

宮中で行われる御神楽、その中で人長の舞はごく限られた神社でしか公開されない。12月中旬のこの頃は冬至が近づき日没が早く真っ暗になり、キリッとした寒さになる。雅楽が奏でられる中、篝火で見えるか見えないかぐらいの明るさの中で行われる人長の舞のなんと神秘的なことか。穢のない真剣な表情にこの御神楽の気高さが重なった。



『暁の満月』

福島 七重

撮影日：2017年4月12日

審査委員からの講評

朝、早い時間にお宮に来られたのだろう。満月が美しい。その暁の満月がこんなに明るく、桜を映し出すのだと知った。情景的描写だが、実は満月と桜の満開の時期を良く計算して撮られたのだろう。



『真夏の宵』

池田 光夫

撮影日：2017年8月6日

審査委員からの講評

暑い夏の日の太陽が沈む頃、空は青ばみ、さっと心地よい風が吹く。参道はぼんぼりで照らし出され、お宮はライトアップで幻想的に映し出される。こんなに多くの人々が夏の宵を楽しんでいたのか、と僅か4年前なのに遥か昔のことのように入る。人の姿をアンダー目な露出にして、お宮の明るさを浮かび上がらせたのが良い。



『無病息災願う』 渡部 和範

撮影日：2021年6月30日

審査委員からの講評

世はコロナ禍で感染拡大を抑えるために藁にもすがりたい思いだった。疫病除けの祭りも各地で中止になってしまった。半年に一度の6月30日の大祓式では穢を祓い去り心身とも清らかに立ち返ることを祈る。作者も感染収束への願いを込めてこの一枚を撮ったのだろう。その気持が伝わってくる。

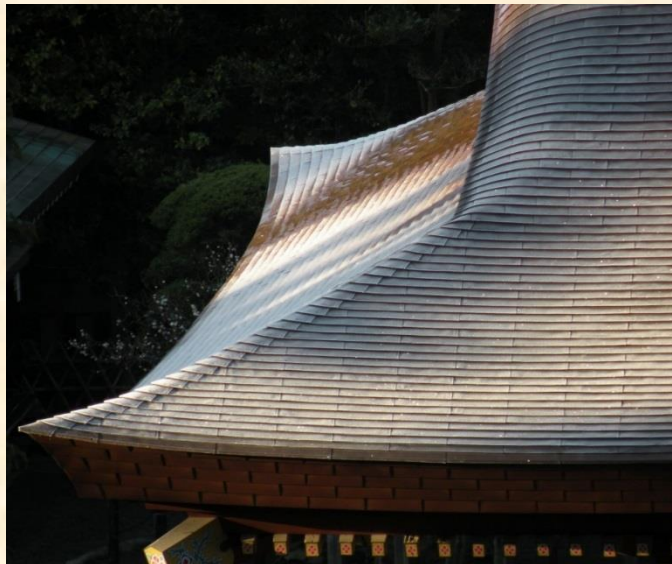


入 選

25 点



『あの日…』 弦間 佳美



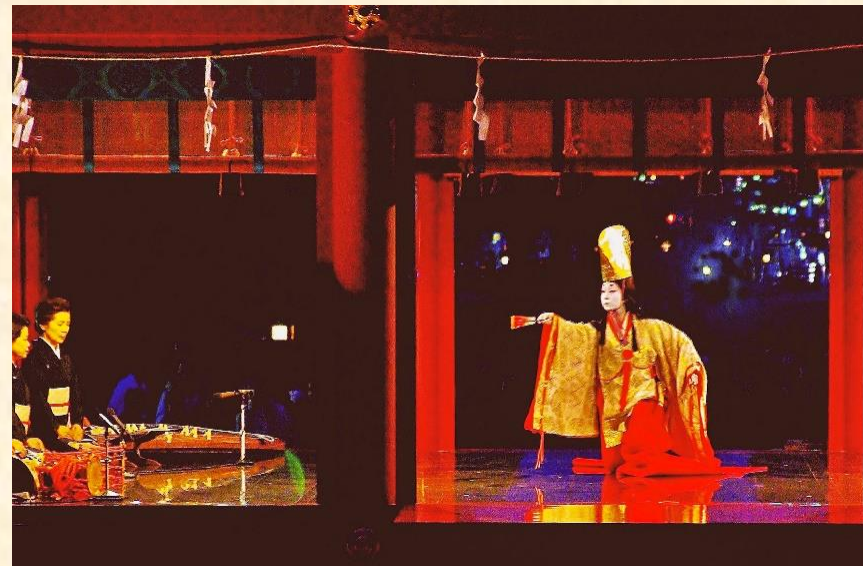
『あの日を忘れない—大銀杏
倒伏の翌朝—』 三浦 元



『紡がれる幸』 東 ミホ



『舞楽』 中沢 賢治



『平成の静御前 優美なパフォーマンスの
夜間奉納!』 徳植 功



『雪洞』 伊藤 和徳



『奉納古典フラ，愛をこめて』 間下 光義



『五月晴の源氏池のハス』 相内 武遂



『まつりの参道』 網島 基之



『在りし日の大銀杏』 須藤 武美



『心あらたに』 小菅 利夫



『赤い欄干橋の上』 田所 俊一



『流鏝馬』 澁谷 進



『一射入魂』 根本 紀男



『終幕の雪花』 長原 桂



『雪の八幡宮』 大西 恭市朗



『大雪の思い出』 松山 進



『平成三十年 迎春』 山口 重久



『三色邂逅』 山内 明徳



『平成最後の神幸祭』
小林 麻由子



『庖丁式』
山本 順子



『スリリング！
昭和の太鼓橋』
伊藤 康平



『春のぼたん庭園』
佐藤 百合子



『初夏の風そよぐ』
望月 敏一



『天晴れ!』
牧之内 貞治

スマートフォン・ 携帯電話部門

特選

『紅白ハチマキ、祭だ！酒だ！お祝いだ！』
佐藤 利夫



審査員からの講評

舞殿の側にズラッと並んだ酒樽はどなたも見たことがあるだろう。四斗樽で全国津々浦々の銘酒が奉納されている。酒好きの方なら目で楽しむことができるだろう。例大祭の時の一コマだ。紅白のハチマキの半纏姿のお二人は、あの酒は飲んだことがある、あれは、、、などと会話が聞こえるようだ。

佳作

『私も3歳になりました』
大畑 豊枝子



入賞の皆様、おめでとうございます。

鶴岡八幡宮宮司賞

『在りし日の大銀杏』

安河内 健一

審査委員賞

『本宮への道』

有田 俊介

カメラのキタムラ賞

『紅葉に光芒』

秋本 英俊

佳作

『流鏑馬神事』

山口 光彦

『朝の光』

岩崎 茂樹

『雪の朝』

神村 輝夫

『人長の舞』

森崎 清光

『暁の満月』

福島 七重

『真夏の宵』

池田 光夫

『無病息災願う』

渡部 和範

優秀賞

『2010-03-10@11:17』

榎原 等

『秋色の白旗神社』

柳澤 穂浪

『時代をつなぐ孫生』

小島 爲玖生

『聖なる稲穂』

石井 良明

『70年前の思い出』

北尾 優博

(敬称略・順不同)

入選(敬称略・順不同)

『あの日...』	弦間 佳美
『あの日を忘れない—大銀杏倒伏の翌朝—』	三浦 元
『紡がれる幸』	東 ミホ
『舞楽』	中沢 賢治
『平成の静御前 優美なパフォーマンスの夜間奉納!』	徳植 功
『雪洞』	伊藤 和徳
『奉納古典フラ, 愛をこめて』	間下 光義
『五月晴の源氏池のハス』	相内 武遂
『まつりの参道』	綱島 基之
『在りし日の大銀杏』	須藤 武美
『心あらたに』	小菅 利夫
『赤い欄干橋の上』	田所 俊一
『流鏑馬』	澁谷 進
『一射入魂』	根本 紀男

『終幕の雪花』	長原 桂
『雪の八幡宮』	大西 恭市朗
『大雪の思い出』	松山 進
『平成三十年 迎春』	山口 重久
『三色邂逅』	山内 明徳
『平成最後の神幸祭』	小林 麻由子
『庖丁式』	山本 順子
『スリリング! 昭和の太鼓橋』	伊藤 康平
『春のぼたん庭園』	佐藤 百合子
『初夏の風そよぐ』	望月 敏一
『天晴れ!』	牧之内 貞治

スマートフォン・携帯電話部門 特選

『紅白ハチマキ、祭だ! 酒だ! お祝いだ!』 佐藤 利夫

スマートフォン・携帯電話部門 佳作

『私も3歳になりました』 大畑 豊枝子

(敬称略・順不同)

槐の会では、この写真展を通して、皆様に八幡宮の新たな一面を発見して戴くことはもちろん、自然環境保護への意識を高めて戴けるよう開催を続けてまいります。

来年度も皆様のご参加をお待ちしております。